

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	日本建築史 (History of Japanese Architecture)		
ナンバリングコード	L20407	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	コース選択必修: 建築設計コース 選択: 建築工学コース、住居・インテリアコース、環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース		
授業コード	L040751	クラス名	-
担当教員名	西村 謙司		
履修上の注意、履修条件	建築設計を志している人は必ず履修すること。建築を学ぶ意欲があることが履修条件です。講義の内容をその時間内に理解するよう心がけること。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるため厳禁。目と手だけで受講するのではなく、目と手と耳、その他の感性を縦横に発揮して受講すること。		
教科書	教科書は用いず、毎回の配付資料によって授業を進めます。		
参考文献及び指定図書	適宜紹介します。		
関連科目	住居論、世界建築史、モダンデザインなど		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	建築を学ぶことの初歩は、過去の優れた事例に学ぶことにはじまります。特にここ日本では、1500年の建築の文化的歴史が育まれてきた経緯があり、その文化的蓄積を基盤に現代でも多くの建築家が世界で活躍しています。つまり、日本の建築は、国際社会において、学ぶに足る文化的内容を有しているということです。この授業では、そのような歴史を有する文化的営みのなかで築かれてきた日本のオリジナリティーと国際的に評価される特徴について、日本で建てられてきた建物を介してその内容を解説します。授業を通して、日本建築の特徴を知識として知ることとともに、その文化的内容の豊かさに対して関心を深め、その拠り所へ興味をもつようになることが期待されています。加えて、日本特有の技術的特徴を理解し、そのことについて考え、体系的に理解するとともに、その内容を表現できる能力を修得します。さらに、「日本的なること」について考え、その思考を現代でどのように活用可能か検討し、表現する能力を養います。
授業の概要	日本において発見された建築空間の魅力を時間軸に沿って説明します。歴史的現代において、伝統に根ざした建築を構築する技術の修得をめざします。講義は多数の建築写真、建築図面を用いて、ビジュアルに行います。各自の設計手法確立の一助となることを期待します。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 該当なし
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	配布プリントはワークシート形式になっています。授業中に示された内容に沿ってブランクに適切な用語を記してください。それによって日本建築に関する関心と意欲を高めます。		10点	10点
【知識・理解】	日本において発見された建築空間を体系的に理解するとともにその技術的特徴に関する知識を習得する。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	日本建築の技術的特徴について考え、その考えを他者の考えと比較した上で表現できるとともに、その内容を深めるために他者とコミュニケーションができる能力が発揮できている。		30点	
【思考・判断・創造】	「日本的なるもの」に関する歴史的思考・思潮を理解し、その思考の問題点と課題を検討した上で、自らの考えを独創的に多様なメディアを介して表現することができる。		20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
<p><成績評価のポイント> 1. 授業への取組姿勢 2. 授業の予習・復習の内容 3. 毎回の授業のワークシートの成果 4. 提出レポート(A2)</p> <p><成績評価のための提出物> 1. 毎回の授業の予習・復習の成果をコピーし、整理し、表紙をつけ、一部に綴じてまとめ、16回目の授業時に<4号館3階技術員室>に提出。 2. 毎回の授業のワークシートの完成版をコピーし、整理し、表紙をつけ、一部に綴じてまとめ、16回目の授業時に<4号館3階技術員室>に提出。 3. 「日本的なるもの」(建築、芸術作品、技術作品)について、絵と図と言葉でまとめ一枚の紙に表現し(A2サイズ)提出。 年明け1回目の授業時に提出。(＜絵と図と言葉＞の図は、平面図・立面図・断面図を指す。また、コンセプトダイアグラムを描くこと。 絵は、建築物の外観・内観を描く。言葉は、単に日本の建築や芸術作品などの説明ではなく、あくまでも「日本的なるもの」がどのような仕方 表現されているのかを踏まえ、「日本的なるもの」の内容が明確に示される内容の文章であること。この点が評価の重要項目。) ・提出物は確認後、返却します。</p>	

○その他	
<p>・提出物に名前の記載が無い場合、成績評価ができません。提出前に、必ず、名前の記載確認をすること。</p> <p>・A2サイズの提出物に関しては、裏面右下に学籍番号と名前を記載すること。</p> <p>・授業の予習復習の成果およびワークシートの完成版は、コピーしたものに表紙をつけて提出するが、その表紙に学籍番号と名前を記載すること。</p> <p>フィードバックは、適宜行います。</p>	

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名：日本建築史 (History of Japanese Architecture) 担当教員：西村 謙司	授業コード：L040751
学修内容		
1. 日本の現代建築 1 日本人建築家の世界で活躍する様子を動画で紹介し、その動画の視聴を介して、日本人建築家が世界的に活躍する契機と可能性について考えていきます。		
予習：「世界で活躍する日本人建築家」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「世界で活躍する日本人建築家」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
2. 日本の現代建築 2 現代の「日本的な」建築の事例を紹介し、特に、「自然環境との融合」を課題とし、自然と建築の関係、地形へ配慮した建築、風景を課題とした建築などに「日本的なこと」を見出し、解説します。		
予習：「自然に深い関わりをもつ建築」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「自然に深い関わりをもつ建築」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
3. 日本の現代建築 3 日本の特質に着眼し、現代日本建築の動向を紹介し、特に「日本の空間感情」を課題とし、「木」を主題として建てられた建築の特徴を解説します。歴史的に木を主材料として建築を構築してきた日本人が現代において独自の発展させてきた「木」を主題とした建築の可能性を見ていきます。		
予習：「木と建築」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「木と建築」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
4. 日本の現代建築 4 日本の特質に着眼し、現代日本建築の動向を紹介し、特に「日本の空間感情」を課題とし、日本建築の造形的・意匠的・空間的特徴である「屋根」、「床」、「透明性」、「彫塑性」に着目し、日本建築の特徴について、解説します。		
予習：「日本建築の造形的・空間的特徴」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本建築の造形的・空間的特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
5. 日本の現代建築 5 日本の特質に着眼し、現代日本建築の動向を紹介し、特に戦後の日本「建築の技術革新」を課題とし、なかでも飛躍的に成長した「タワー」と「ドーム」の建築技術について解説します。		
予習：「タワーとドーム」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「タワーとドーム」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
6. 磯崎新の建築 世界で活躍する大分出身の建築家磯崎新の建築世界を紹介し、特に、大分に多数建築された磯崎新の初期作品の解説をします。また、中期・後期の設計スタイルの変遷過程について説明するとともに、世界的建築家の建築設計への姿勢について解説します。		
予習：「磯崎新とその作品」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「磯崎新とその作品」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
7. 木構造の仕組み 伝統工法に着目し、日本建築の基礎構造となる木構造の仕組みについて学びます。		
予習：「日本の古建築の工法」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本の古建築の工法」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
8. 日本建築史概要 日本建築史を学ぶ上で必要になる基礎知識の習得を試みます。特に、日本の古建築の技術的特徴について解説します。		
予習：「日本の古建築の技術的特徴」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本の古建築の技術的特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)

○授業計画	科目名：日本建築史 (History of Japanese Architecture) 担当教員：西村 謙司	授業コード：L040751
学修内容		
9. 神社建築 1 日本古代の神社建築について説明します。特に、「神明造」、「大社造」、「住吉造」といった本殿様式の基礎的知識の習得とその具体的事例について解説します。		
予習：「伊勢神宮」、「出雲大社」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「神社建築」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
10. 神社建築 2 日本の神社建築の歴史について説明します。特に、「春日造」、「流造」、「八幡造」、「日吉造」といった神社建築の基本様式の基礎的知識の習得とその具体的事例について解説します。		
予習：「宇佐神宮」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「宇佐神宮」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
11. 奈良時代の仏堂 奈良時代に建てられた仏教建築について説明します。特に、「法隆寺」、「薬師寺」、「唐招提寺」について具体的な建築内容の解説を行います。		
予習：「法隆寺」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「奈良時代の寺院建築」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
12. 浄土教建築 平安時代に建てられた仏教建築について説明します。特に、浄土教建築について解説します。なかでも「平等院鳳凰堂」の特徴について具体的に説明します。		
予習：「平等院鳳凰堂」、「富貴寺」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「浄土教建築」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
13. 中世仏堂 1 中世から近世にかけて建てられた仏教建築について説明します。特に、「大仏様」に関する建築について解説します。「重源」が関わった「東大寺」、「浄土寺浄土堂」については、詳細に説明をします。		
予習：「重源」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「重源の建築観」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
14. 中世仏堂 2 中世から近世にかけて建てられた仏教建築について説明します。特に「禅宗様」に関する建築について解説します。具体的に「大徳寺」、「円覚寺」について解説します。また、「新和様」、「折衷様」という中世の建築様式について説明します。		
予習：「禅宗の建築」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「禅宗の建築」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
15. 近世の日本建築 近世に建てられた日本の建築について説明します。特に、「桂離宮」、「茶室」について解説します。また、「数寄屋造」について解説します。		
予習：「桂離宮」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「数寄屋造」について、考え、文章にて特徴を記すこと。		(約2.0h)
16. 課題提出 授業の予習・復習の成果をまとめたもののコピー(表紙付・表紙に主題と各自の学籍番号・名前を記載)、授業中に配布したワークシートを完成させたもののコピーをまとめたもの(表紙付・表紙に主題と各自の学籍番号・名前を記載)を、<4号館3階技術員室>に提出。		
予習：		
復習：		